

開発途上国における実践的な耐震工法の開発のための 国際ワークショップ 2007 のご案内

1. 趣旨

地震被害の軽減は、ジャワ中部地震、パキスタン北部地震、スマトラ沖地震などの悲惨な被害からも明らかのように地震地域共通の喫緊の課題の一つである。このため、項目2の4機関は、インドネシア、ネパール、パキスタン、トルコの地震国4ヶ国の研究機関と共同して、下記の3テーマを対象に、新たに「地震防災に関するネットワーク型共同研究」と題するプロジェクトに取り組む事とした。(文部科学省科学技術振興調整費による)

このうち第2テーマ「実践的な耐震工法」については、開発途上国で活用可能な耐震工法を目指して「実践的な耐震工法のための実験研究」、「簡易でローコストの免震技術開発」、「工学と建設工事との間のブリッジ構築」の3つの活動計画(コンポーネント)に取り組んできているが、その成果の共有と今後の進め方についての意見交換を行うため、以下のとおりワークショップを開催する。なお、本ワークショップは、5ヶ国の会場(日本、インドネシア、ネパール、パキスタン、トルコ)をビデオ会議システムによって繋ぎ、また、ウェブ・ストリーミング・サービスにより世界中からのインターネット接続によるアクセスを可能にして開催するものである。

また、今回のワークショップは、「地震防災のための東京国際ワークショップ2006」(2006年11月22-23日 概要 <http://www.kenken.go.jp./japanese/information/information/event/tokyo-2006/index.htm>)及び「ローコスト免震技術の開発に関する講演会」及び『耐震工法に関する研究開発』に関する国際テレビ会議(2007年2月8日 概要 <http://www.kenken.go.jp./japanese/information/information/event/tokyo-2007/index.htm>)の成果を受けて実施するものである。

研究開発テーマ テーマ1 建物のリスク管理システム

テーマ2 実践的な耐震工法

テーマ3 技術の社会への定着方策

2. 主催者

建築研究所、防災科学技術研究所、三重大学、政策研究大学院大学

3. 日時

2007年7月18日(水) 午後4時-9時

4. 会場

主会場：世界銀行東京開発ラーニングセンター(内幸町富国生命ビル) <別添地図参照>

国内サブ会場：建築研究所(つくば市)

海外サブ会場：インドネシア（バンドン、ジョグジャカルタ）
ネパール（カトマンズ）
パキスタン（イスラマバード、ペシャワール）
トルコ（アンカラ）

5. ウェブ・ストリーミング・サービス

世界各地からのインターネット接続により、ワークショップの視聴が可能です。

希望される方は、下記9により申し込みください。開催日の数日前に、メールにてアドレスを連絡させていただきます。

6. 内容

第1部 ファシリテーター：岡崎健二(政策研究大学院大学)

- ① 地震被害軽減に向けた取り組みと「実践的な耐震工法の開発」の活動計画の概要
榎府龍雄（建築研究所、「地震防災に関するネットワーク型共同研究」代表者）
- ② 「実践的な耐震工法のための実験研究」の概要と今後のすすめ方
花里利一（三重大学）
- ③ 実大振動台実験の概要
箕輪親宏（防災科学技術研究所）
- ④ 振動台実験の狙いとアプローチの方針(有限要素法（FEM）の適用提案を含む)
Qaisar Ali（ペシャワール工科大学）（パキスタンよりプレゼンテーション）
<解析手法の適用の提案>
- ⑤ 個別要素法（DEM）の概要、適用事例と組積造への適用 中川貴文（建築研究所）
- ⑥ 骨組み法の概要、適用事例と組積造への適用 斉藤大樹（建築研究所）
- ⑦ 簡易解析法の適用の方針 花里利一（三重大学）
- ⑧ 壁量による水平耐力の想定方法の適用 今井弘(建築研究所)

<各国の取り組みの提案>

- ⑨ （予定）インドネシアにおける取り組みの提案（インドネシアよりプレゼンテーション）
Dyah Kusumastuti(バンドン工科大学)
- ⑩ （予定）ネパールにおける取り組みの提案（ネパールよりプレゼンテーション）
Jishnu Subedi（ネパール工科大学）
- ⑪ （予定）トルコにおける取り組みの提案（トルコよりプレゼンテーション）
Cahit Kocaman（公共事業省地震研究部）

第2部 ファシリテーター：斉藤憲晃

- ⑫ コンポーネント2-3「簡易でローコストの免震技術の開発」の取り組みの概要
榎府龍雄（建築研究所）
- ⑬ 復元機構を持たないローコスト滑り免震装置開発のための実験結果の概要
橘英三郎（大阪大学名誉教授）
- ⑭ コンポーネント2-2「工学と建設工事との間のブリッジ構築」の取り組みの概要
榎府龍雄（建築研究所）
- ⑮ ペルーにおける建設プロセス・モニタリングの実施と成果
松崎志津子（NPO 法人都市計画・建築関連 OV の会（EVAA））

7. 言語

英語中心ですが、同時通訳を行います。

8. その他

会場に飲み物、スナックを用意します。

9. 参加申込み

添付の参加登録票に記入のうえ、7月10日までに下記までeメール又はファックスにてお申込みください。

宛先 str-ws2007@kenken.go.jp FAX:029-864-2989

担当：岡倉 TEL：029-864-6641

内容に関わる照会は、建築研究所（今井imai@kenken.go.jp TEL:029-879-0746 又は
榎府narafu@kenken.go.jp TEL:029-879-0689）までお願いします。

開発途上国における実践的な耐震工法の開発のための国際ワークショップ2007
Thematic International Workshop 2007 on Feasible and Affordable Seismic Constructions in
Developing Countries

2007(平成 19)年 7 月 18 日(水)
September 18th, 2007

開催場所 Venue:

世界銀行東京開発ラーニングセンターTokyo Development Learning Center (TDLC), The World
Bank

住所 Address:

〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 10 階
10F, Fukokuseimei Bld., 2-2-2 Uchisaiwai-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

電話 Tel: 03-3597-6650(代表)

FAX: 03-3597-6695

交通 Transportation

- ・JR 山手線、京浜東北線 新橋駅 日比谷口 (JR Yamanote Line, Keihin Tohoku Line Shimbashi Station, Hibiya Exit)
- ・地下鉄 都営三田線 内幸町駅 A6 直結 (Subway Toei Mita Line Uchisaiwaicho Station, Exit A6)
- ・地下鉄 千代田線 霞ヶ関駅 C4 出口 (Subway Chiyoda Line Kasumigaseki, Exit C4)
- ・地下鉄 日比谷線 霞ヶ関駅 C4 出口 (Subway Hibiya Line Kasumigaseki, Exit C4)
- ・地下鉄 丸の内線 霞ヶ関駅 B2 出口 (Subway Marunouchi Line, Kasumigaseki, Exit B2)

